

来て・見て・さわって 感じるSL 『SLキューロク館』OPEN



真岡市SLの走るまち拠点施設として、真岡駅東口に『SLキューロク館』が、4月28日(日)にオープンしました。SLキューロク館は、関東の駅百選に認定されている真岡駅舎と同様にSLの形をした平屋建てで、施設の中には、井頭公園から移設した9600形蒸気機関車49671号機と、昭和末期まで北海道でSLなどにけん引されて走っていた旧型客車「スハフ44形(25号)」が展示されています。SLキューロク館をはじめ、情報センター4階の「SLギャラリー」や、屋外展示車両、駅から眺めるSLのある風景をめぐりながら、真岡駅をまるごと楽しんでみませんか。

みなさん
遊びに来て
くださいーい!



○開館時間

- ◆開館時間：午前10時～午後6時
- ◆休館日：毎週火曜日※祝日の場合は翌日
年末年始(12/29～1/3)
- ◆入館料：無料
- ◆駐車場：150台

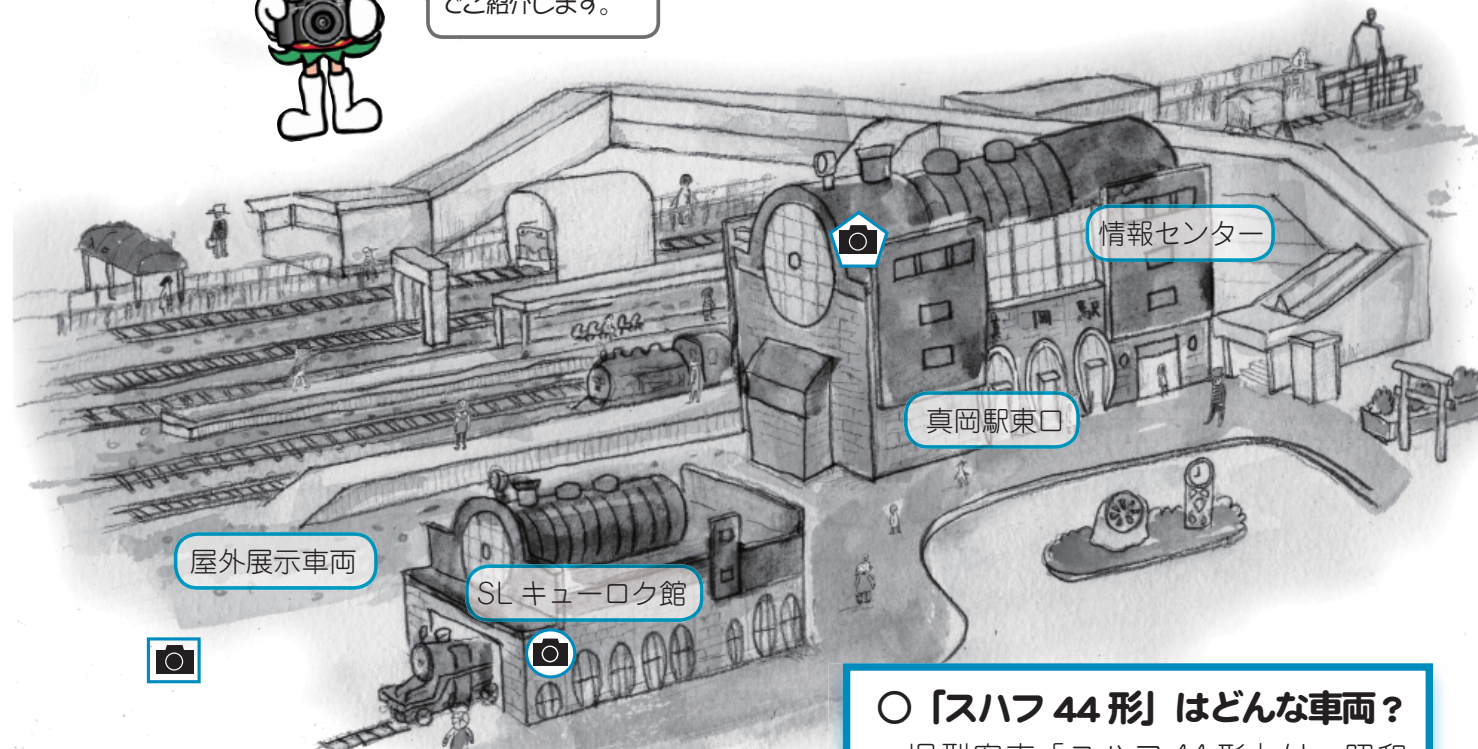
○問い合わせ

SLキューロク館 電話 83-9600

フォトポイント見つけた



ステキな写真が
取れる場所を
📷マーク
でご紹介します。



○SLキューロク館って何があるの？

キューロク館の中には、9600形蒸気機関車「キューロク」と旧型客車「スハフ44形」が展示され、車内に入り細部まで見ることができます。館内ではキューロクやスハフ44形を眺めながら、コーヒーを飲むなど休憩ができます。

またグッズショップには、お土産にぴったりなオリジナル商品や鉄道グッズが豊富にそろっています。



○SLギャラリー (情報センター4階)

Nゲージのジオラマや電車運転ゲーム、SLや鉄道に関する展示物があり、鉄道ファンでなくても楽しめるギャラリーです。

◆各種鉄道模型ジオラマ

展示してある2台の鉄道模型ジオラマは、日下田真美さん(西田井)から寄贈され、3年前に亡くなった夫の富義さんが生前に制作したものです。



◆電車運転ゲーム

アクセルとブレーキを上手に操作し、運転手になりきって出発、安全に走行し停車までを行うゲームです。リモコンではなく、本物とそっくりのレバーで操作します。



📷情報センターの4階からは展望デッキに行くことができます。展望デッキからは下りのSLやキューロク館を上から見ることができ、いつもと違ったアングルが楽しめます。

○屋外展示車両もあります

◆キハ20形ディーゼル動車

昭和33年に製造され、昭和63年4月まで、真岡線を走っていました。市民の皆さまにも、なじみのある車両です。



◆コ8000形車掌車

車掌車とは、主に貨物列車の最後尾に連結されていた車両で、デッキには手動のブレーキが付いています。この車両は、昭和49年に製造されたもので、旧国鉄時代の車掌車としては、最も新しいデザインのもので、車掌車としては、初めてトイレが設けられています。



○「スハフ44形」はどんな車両？

旧型客車「スハフ44形」は、昭和29年3月に、北海道路線用として製造された三等緩急車で、急行「ニセコ」の客車として使用され、昭和62年3月に廃車となりました。スハフ44形の前に展示されているキューロクは、北海道の五稜郭機関区所属だった記録があるため、当時この2台は出会っていた可能性があり、数十年ぶりに再会したのかもしれない。

客車内では、手動ドアや扇風機など昭和の昔懐かしい雰囲気を味わうことができます。



○「キューロク」ってどんなSL？

9600形は、国産蒸気機関車として大正2年に1号機が誕生して以来、14年間に770両が製造され、日本の各地を走った大正時代の代表的な蒸気機関車の一つです。

太いボイラー、短い化粧煙突、低い二つのドームにかたどられた雄姿は、「キューロク」の愛称で親しまれ、この49671号機は、大正9年に製造され、昭和51年までの57年間、北海道で急行列車や貨物列車を引っ張って、256万km(地球を約64周分)を走りました。

📷キューロクの細部をクローズアップすると、ダイナミックな写真が取れます。

○「キューロク」は、いつ動く？

毎週日曜日・祝日(1日3回)

- ①午前10時30分
- ②正午
- ③午後2時30分

📷日曜日と祝日には、上りのSLとキューロク、真岡駅舎とキューロク館の4つのSLがそろいます。

